

ILCAA Forum

Date: 18 November 2010 (Thu.) 15:00-17:00

Venue: 304, Multimedia Meeting Room, ILCAA, TUFUS

陳劍 (AA 研外国人研究員)

「以戦国竹書為例談談古文字の考釈」

Abstract:

傳統的古文字考釋（戦国竹書以外の甲骨金文、戦国文字），針對不同材料有不同的情況，已經積累起了一套行之有效的方法，本講座首先對此略作介紹。近年新發表的以郭店楚簡和上博竹書為代表的戦国竹書，又為古文字考釋提供了新的手段、途徑和檢驗標準，使得古文字的考釋更為精密，方法更加豐富。本講座將重點以具體例子對此加以介紹。

主要包括以下幾方面的內容：一、戦国竹書有今本或別本對照，能迅速確定某待考釋之字的讀音和意義，並進而探求其字形結構和源流問題；二、竹書有豐富的韻文資料，往往可以根據韻脚幫助確定待考釋之字的讀音；三、竹書有明確的上下文意限制，有豐富的同時代或時代大致接近的古書為背景，可以為待考釋之字提供綫索，或是限定其選擇範圍，反過來說，又使得考釋是否正確具有了較為客觀的檢驗標準；四、竹書文字提供了更多東周古文字到隸楷或傳抄古文字形的中間環節，借此上申下聯，不但能考定竹書文字本身，還能考釋出舊有更早的甲骨金文中的疑難字形。

概要：

中国古文字の伝統的な考釈研究は、諸種の材料（甲骨金文と戦国竹書以外の戦国文字）のそれぞれ異なる状況に対応して、多くの有効な考釈方法を蓄積してきた。本報告は、まずそれについて簡単な回顧を行う。それに加えて、近年新たに郭店楚簡や上海博物館蔵楚簡を代表とする戦国竹書が発表されたが、これは、古文字の考釈のために新しい材料や検証基準を提供し、考釈研究を一段と飛躍させた。本報告は、具体例を中心として、この新材料が切り開いた考釈研究の新地平について紹介する。

主に以下の四点に焦点を当てる予定である。一、戦国竹書は、伝世文献資料との充実した対応関係によって、従来積読できなかった古文字の字音と字義を迅速に確定する手掛かりを無数提供し、それによって字形の構造と源流の解明にも大きく貢献する。二、竹書は、豊富な音韻資料を含んでおり、韻脚によって、未積読字の字音が確定できる場合が少なくない。三、竹書は、比較的完全な形で戦国時代当時の書籍を今に伝えるため、文脈情報も完成度が高く、用例分析に基づく考釈にとっては、極めて明確な判断基準および検証基準を提供する。四、竹書に使われている文字は、東周の古文字と隸書・楷書および伝抄古文字を媒介する中間的の字形が多く、前後の字形変遷を明らかにすることによって、より古い時代の甲骨や金文中の難解字形を解明する鍵となることも決して珍しくない。